研究論文

児童生徒の特性からみた生徒指導の質的改善
—小学生の攻撃性について—

朝長昌三　(長崎大学教育学部人間発達講座)
福井昭史　(長崎大学教育学部芸術表現講座)
地頭薗健司 (長崎大学教育学部人間発達講座)
小島道生　(長崎大学教育学部人間発達講座)
中村千秋　(長崎大学教育学部数理情報講座)
小原達朗　(長崎大学教育学部人間発達講座)
柳田泰典　(長崎大学教育学部人間発達講座)

はじめに

子どもは就学前期から学童期にかけて，さまざまな認知能力が発達し，また仲間との相互作用のなかでさまざまなルールを身につけることによって，攻撃行動は望ましくないということを学習する．その結果，多くの子どもは攻撃行動を示さなくなってくるとされている．

本研究では，子どもの攻撃性を反応的攻撃から検討した．反応的攻撃は，怒りを伴い，フラストレーション理論に裏づけられているとされる．したがって，衝動性とかかわり，情緒制御がうまく働かないことが攻撃の発動にもかかわり，こうした能力の獲得の遅れが，反応的攻撃と深くかかわってくると予測されている．

朝長ら（2007）らは，小学生の攻撃性を表出性攻撃と不表出性攻撃から検討し，以下のような結果を得た．４年生，５年生および６年生の男児と，５年生および６年生の女児の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．また表出性攻撃の性差に関しては，４年生および５年生の男児が女児よりも大で，統計的にも有意であった．不表出性攻撃の性差に関しては，男女間に有意な差はなかった．

そこで本研究では，離島の小学生の攻撃性を表出性攻撃と不表出性攻撃から検討することを目的とした．

方　法

（1）　回答者

回答者は，長崎県内の離島の６小学校の児童893名（男子児童434名，女子児童459名）であった．４年生は男子128名で，女子は147名であった．５年生は男子160名で，女子は139名であった．６年生は男子146名で，女子は173名であった．

（2）　調査

調査は，小学生用攻撃性質問紙（HAQ - C）を用いて行った．

本質問紙は27項目から構成されている．回答者は各質問に対して「まったくあてはまらない」，

「あまりあてはまらない」,「よくあてはまる」,「とてもよくあてはまる」の4段階の1つに回答した.

結　果

結果の処理については，以下のように行った.

各質問項目に対して「とてもよくあてはまる」に4点,「よくあてはまる」に3点,「あまりあてはまらない」に2点,「まったくあてはまらない」に1点を加算し，その合計点を各回答者の2特性の代表値とした.

判定基準に関しては，山崎ら（2002）の基準を用いて，各回答者の2特性の代表値にあてはめた.

統計処理に関しては，各回答者の2特性の代表値からt-検定を行い，以下のような結果を得た.

(1)　男児における表出性攻撃と不表出性攻撃の比較

① 4年生の攻撃性（n=128）

表出性攻撃　：$\bar{x}$ =20.180　(SD=5.781)　判定：普通

不表出性攻撃：$\bar{x}$ =16.102　(SD=4.709)　判定：普通

t=6.188　($p<.01$, df=254)

以上のように，4年生男児の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．また判定基準によれば，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

② 5年生の攻撃性（n=160）

表出性攻撃　：$\bar{x}$ =19.588　(SD=4.970)　判定：普通

不表出性攻撃：$\bar{x}$ =15.769　(SD=4.236)　判定：普通

t=7.398　($p<.01$, df=318)

以上のように，5年生男児の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．また判定基準によれば，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

③ 6年生の攻撃性（n=146）

表出性攻撃　：$\bar{x}$ =20.349　(SD=5.103)　判定：普通

不表出性攻撃：$\bar{x}$ =16.418　(SD=4.286)　判定：普通

t=7.129　($p<.01$, df=290)

以上のように，6年生男児の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．また判定基準によれば，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

④ 男児全体の攻撃性（n=434）

表出性攻撃　：$\bar{x}$ =20.018　(SD=5.263)　判定：普通

不表出性攻撃：$\bar{x}$ =16.085　(SD=4.395)　判定：普通

t=11.949　(p<.01, df=866)

以上のように，男児全体の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．また判定基準によれば，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった．

（2）女児における表出性攻撃と不表出性攻撃の比較

①　4年生の攻撃性（n=147）

表出性攻撃　：$\bar{x}$ =17.082　(SD=5.438)　判定：普通

不表出性攻撃：$\bar{x}$ =15.265　(SD=4.853)　判定：普通

t=3.021　(p<.01, df=292)

以上のように，4年生女児の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．また判定基準によれば，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった．

②　5年生の攻撃性（n=139）

表出性攻撃　：$\bar{x}$ =19.201　(SD=5.286)　判定：普通

不表出性攻撃：$\bar{x}$ =16.921　(SD=4.727)　判定：普通

t=3.791　(p<.01, df=276)

以上のように，5年生女児の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．また判定基準によれば，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった．

③　6年生の攻撃性（n=173）

表出性攻撃　：$\bar{x}$ =19.283　(SD=4.976)　判定：普通

不表出性攻撃：$\bar{x}$ =16.168　(SD=4.106)　判定：普通

t=6.352　(p<.01, df=344)

以上のように，6年生女児の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．また判定基準によれば，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった．

④　女児全体の攻撃性（n=459）

表出性攻撃　：$\bar{x}$ =18.553　(SD=5.307)　判定：普通

不表出性攻撃：$\bar{x}$ =16.107　(SD=4.583)　判定：普通

t=7.475　(p<.01, df=916)

以上のように，女児全体の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．また判定基準によれば，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった．

（3）　表出性攻撃に関する学年間比較

1）男児

①　4年生×5年生

t=.934　有意差なし

② 4年生×6年生

t=.258　有意差なし

③ 5年生×6年生

t=1.322　有意差なし

以上のように，表出性攻撃の学年間比較に関しては，6年生が最も大で，次が4年生で，5年生が最も小であったが，統計的に有意な差はなかった.

2）女児

① 4年生×5年生

t=3.340　(p<.01，df=284)

② 4年生×6年生

t=3.779　(p<.01，df=318)

③ 5年生×6年生

t=.140　有意差なし

以上のように，表出性攻撃の学年間比較に関しては，6年生が最も大で，次が5年生で，4年生が最も小であった．5年生と6年生の間には統計的に有意な差はなかったが，4年生との間には統計的に有意な差があった.

（4）不表出性攻撃に関する学年間比較

1）男児

① 4年生×5年生

t=.630　有意差なし

② 4年生×6年生

t=.582　有意差なし

③ 5年生×6年生

t=1.331　有意差なし

以上のように，不表出性攻撃の学年間比較に関しては，6年生が最も大で，次が4年生で，5年生が最も小であったが，統計的に有意な差はなかった.

2）女児

① 4年生×5年生

t=2.920　　(p<.01, df=284)

② 4年生×6年生

t=1.802　　有意差なし

③ 5年生×6年生

t=1.505　　有意差なし

以上のように，不表出性攻撃の学年間比較に関しては，5年生が最も大で，次が6年生で，4年生が最も小であった．4年生と5年生との間には統計的に有意な差はあったが，5年生と6年生との間と4年生と6年生の間には有意な差はなかった．

（5）性差

1）表出性攻撃

① 4年生

t =4.576　　(p <.01, d f =273)

以上のように，4年生の表出性攻撃の性差に関しては，男児の方が女児よりも大で，統計的にも有意な差があった．

② 5年生

t=.650　　有意差なし

以上のように，5年生に関しては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった．

③ 6年生

t=1.884　　有意差なし

以上のように，6年生に関しては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった．

④ 全体

t=4.139　　(p<.01, df=891)

以上のように，表出性攻撃に関しては，男児全体の方が女児全体よりも大で，統計的に有意な差があった．

2）不表出性攻撃

① 4年生

t=1.445　　有意差なし

以上のように，4年生の性差に関しては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった.

② 5年生

t=2.222　　(p<.05，df=297)

以上のように，5年生の性差に関しては，女児の方が男児よりも大で，統計的に有意な差があった.

③ 6年生

t=.531　　有意差なし

以上のように，6年生の性差に関しては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった.

④ 全体

t=.070　　有意差なし

以上のように，不表出性攻撃の性差に関しては，女児全体の方が男児全体よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった.

考　察

本研究では，離島の小学生の攻撃性を表出性攻撃と不表出性攻撃から検討することを目的とした.

(1) 男児における表出性攻撃と不表出性攻撃の比較

4年生の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準によれば，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった．これらは，朝長ら（2007）の得た結果と同様の結果であった.

判定基準の「非常に強い」と「やや強い」を「強い攻撃性」としたとき，「強い表出性攻撃」の出現率は32%で，「強い不表出性攻撃」の出現率は22%であった．また「強い表出性攻撃」で「強い表出性攻撃」の出現率は12%であった．2007年に得た「強い表出性攻撃」の出現率は32%で，「強い不表出性攻撃」は40%で，「強い表出性攻撃」で「強い不表出性攻撃」は12%であった．これらのことから，島の小学4年生男児の攻撃性は長崎市の男児に比べると，周りに対して「強い敵意」をいだくことが少ないといえる.

「やや弱い」と「非常に弱い」を「弱い攻撃性」としたとき，「弱い表出性攻撃」の出現率は30%で，「弱い不表出性攻撃」の出現率は52%であった．また「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は21%であった．2007年に得た「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」は11%であっ

た．これらのことから，島の小学４年生男児の攻撃性は長崎市の男児に比べると，周りに対して攻撃性をいだくことが少ないといえる．

５年生の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準によれば，表出性も不表出性も普通であった．

「強い表出性攻撃」の出現率は19%で，「強い不表出性攻撃」の出現率も19%であった．また「強い表出性攻撃」で「強い表出性攻撃」の出現率は５%であった．2007 年の結果では，「強い表出性攻撃」の出現率は29%で，「強い不表出性攻撃」は33%であり，「強い表出性攻撃」で「強い表出性攻撃」は17%であった．これらのことから，島の小学５年生男児の攻撃性は長崎市の男児に比べると，強い攻撃性をもつ児童は少ないといえる．

「弱い表出性攻撃」の出現率は27%で，「弱い不表出性攻撃」の出現率は49%であった．また「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は18%であった．2007 年に得た「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」は18%であった．このことから，島の小学５年生男児の攻撃性は長崎市の男児に比べると，周りに対して攻撃性をいだくことが少ないといえる．

６年生の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準によれば，表出性も不表出性も普通であった．

「強い表出性攻撃」の出現率は27%で，「強い不表出性攻撃」の出現率は23%であった．また「強い表出性攻撃」で「強い表出性攻撃」の出現率は 10%であった．2007 年に得た「強い表出性攻撃」は26%で，「強い不表出性攻撃」は29%，「強い表出性攻撃」で「強い不表出性攻撃」は12%であった．これらのことから，島の小学６年生男児の攻撃性は長崎市の男児に比べると，強い敵意をもつ割合が比較的少ないといえる．

「弱い表出性攻撃」の出現率は25%で，「弱い不表出性攻撃」の出現率は42%であった．また「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は 12%であった．2007 年に得た「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」は13%であった．このことから，島の６年生男児の弱い攻撃性は長崎の児童とほとんど同じといえる．

以上のことから，島の男児は長崎の児童に比べて，「強い攻撃性」をもっていないといえる．

（2）女児における表出性攻撃と不表出性攻撃の比較

４年生の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準によれば，表出性も不表出性も普通であった．

「強い表出性攻撃」の出現率は23%で，「強い不表出性攻撃」の出現率は20%であった．また「強い表出性攻撃」で「強い表出性攻撃」の出現率は８%であった．

「弱い表出性攻撃」の出現率は44%で，「弱い不表出性攻撃」の出現率は53%であった．また「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は30%であった．

2007 年に得た「強い表出性攻撃」は21%，「強い不表出性攻撃」は34%，「強い表出性攻撃」で「強い不表出性攻撃」は12%，また「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」は30%であったことから，島の４年生女児は長崎市の女児に比べると，「強い攻撃性」をもった児童は少ないといえる．

５年生の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準によれば，表出性も不表出性も普通であった．

「強い表出性攻撃」の出現率は34%で，「強い不表出性攻撃」の出現率は25%であった．また「強い表出性攻撃」で「強い表出性攻撃」の出現率は12%であった．

「弱い表出性攻撃」の出現率は29%で，「弱い不表出性攻撃」の出現率は32%であった．また「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は14%であった．

2007年に得た「強い表出性攻撃」は27%，「強い不表出性攻撃」は29%，「強い表出性攻撃」で「強い不表出性攻撃」は12%，また「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」は14%であったことから，島の５年生女児は長崎市の女児と比較して，「強い表出性攻撃」の出現率は高いといえる．

６年生の攻撃性に関しては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準によれば，表出性も不表出性も普通であった．

「強い表出性攻撃」の出現率は34%で，「強い不表出性攻撃」の出現率は21%であった．また「強い表出性攻撃」で「強い表出性攻撃」の出現率は13%であった．

「弱い表出性攻撃」の出現率は23%で，「弱い不表出性攻撃」の出現率は34%であった．また「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は10%であった．

2007年に得た「強い表出性攻撃」は30%，「強い不表出性攻撃」は26%，「強い表出性攻撃」で「強い不表出性攻撃」は10%，また「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」は９%であったことから，島の５年生女児は長崎市の女児と比較して，「強い表出性攻撃」の出現率は高いといえる．

以上のことから，島の女児は「強い表出性攻撃」をもった女児の多いことがわかった．

（3）表出性攻撃と不表出性攻撃に関する学年間比較

1）男児

表出性攻撃に関して学年間の比較を行った場合，６年生が最も大で，次が４年生で，５年生が最も小であったが，統計的に有意ではなかった．また不表出性攻撃に関して学年間の比較を行った場合，６年生が最も大で，次が４年生で，５年生が最も小であったが，統計的に有意な差はなかった．

「強い表出性攻撃」の出現率は４年生が32%，５年生が19%，６年生が27%であった．「強い不表出性攻撃」の出現率は，同様に22%，19%，23%であった．「強い表出性攻撃」で「強い不表出性攻撃」の出現率は12%，５%，10%であった．このように，男児においては，強い攻撃性の出現率は４年生と６年生が高いといえた．

「弱い表出性攻撃」の出現率は４年生が30%，５年生が27%，６年生が25%であった．「弱い不表出性攻撃」の出現率は，同様に52%，49%，42%であった．「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は21%，18%，12%であった．このように，弱い攻撃性の出現率は４年生が高く，６年生が低いといえた．

2）女児

表出性攻撃に関して学年間の比較を行った場合，６年生が最も大で，次が５年生で，４年生が最も

小であった．５年生と６年生の間には統計的に有意な差はなかったが，４年生との間には有意な差があった．また不表出性攻撃に関して学年間の比較を行った場合，５年生が最も大で，次が６年生で，４年生が最も小であった．４年生と５年生との間には統計的に有意な差はあったが，５年生と６年生の間と４年生と６年生の間には有意な差はなかった．

「強い表出性攻撃」の出現率は４年生が23%，５年生が34%，６年生が34%であった．「強い不表出性攻撃」の出現率は，同様に20%，25%，21%であった．「強い表出性攻撃」で「強い不表出性攻撃」の出現率は８%，12%，13%であった．このように，女児においては，強い攻撃性の出現率は５年生と６年生が高いといえた．

「弱い表出性攻撃」の出現率は４年生が44%，５年生が29%，６年生が23%であった．「弱い不表出性攻撃」の出現率は，同様に53%，32%，34%であった．「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は30%，14%，10%であった．このように，弱い攻撃性の出現率は６年生が高く，４年生が低いといえた．

（4）性差

1）４年生

表出性攻撃に関しては，男児の方が女児よりも大で，統計的にも有意であった．しかし不表出性攻撃に関しては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった．

「強い表出性攻撃」の出現率に関しては，男児が32%で，女児は23%であった．「強い不表出性攻撃」の出現率に関しては，男児が22%で，女児は20%であった．「強い表出性攻撃」で「強い不表出性攻撃」の出現率は，男児が12%で，女児は８%であった．以上のように４年生の「弱い表出性攻撃」の出現率は男児が30%で，女児は44%であった．「弱い不表出性攻撃」の出現率は男児が52%で，女児は53%であった．「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は男児が21%で，女児は30%であった．

2）５年生

表出性攻撃に関しては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった．また不表出性攻撃に関しては，男児の方が女児よりも大で，統計的にも有意であった．

「強い表出性攻撃」の出現率に関しては，男児が19%で，女児は34%であった．「強い不表出性攻撃」の出現率に関しては，男児が19%で，女児は25%であった．「強い表出性攻撃」で「強い不表出性攻撃」の出現率は，男児が５%で，女児は12%であった．

「弱い表出性攻撃」の出現率は男児が27%で，女児は29%であった．「弱い不表出性攻撃」の出現率は男児が49%で，女児は32%であった．「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は男児が18%で，女児は14%であった．

3）６年生

表出性攻撃および不表出性攻撃に関しては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な

差はなかった.

「強い表出性攻撃」の出現率に関しては，男児が27%で，女児は34%であった.「強い不表出性攻撃」の出現率に関しては，男児が23%で，女児は21%であった.「強い表出性攻撃」で「強い不表出性攻撃」の出現率は，男児が10%で，女児は13%であった.

「弱い表出性攻撃」の出現率は男児が25%で，女児は23%であった.「弱い不表出性攻撃」の出現率は男児が42%で，女児は34%であった.「弱い表出性攻撃」で「弱い不表出性攻撃」の出現率は男児が12%で，女児は10%であった.

要　約

離島の小学生の攻撃性について小学生用攻撃性質問紙（HAQ - C）を用いて，表出性攻撃と不表出性攻撃から検討し，以下のような結果を得た.

（1）　男児における表出性攻撃と不表出性攻撃の比較

① 4年生においては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準では，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

② 5年生においては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準では，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

③ 6年生においては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準では，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

④ 男児全体では，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準では，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

（2）女児における表出性攻撃と不表出性攻撃の比較

① 4年生においては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準では，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

② 5年生においては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準では，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

③ 6年生においては，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準では，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

④ 男児全体では，表出性攻撃が不表出性攻撃よりも大で，統計的にも有意であった．判定基準では，表出性攻撃も不表出性攻撃も普通であった.

（3）表出性攻撃に関する学年間比較

① 男児においては，6年生が最も大で，次が4年生で，5年生が最も小であったが，統計的に有意な差はなかった.

② 女児においては，6年生が最も大で，次が5年生で，4年生が最も小であった．5年生と6年生の間には統計的に有意な差はなかったが，4年生との間には統計的に有意な差があっ

た.

（4）不表出性攻撃に関する学年間比較

① 男児においては，６年生が最も大で，次が４年生で，５年生が最も小であったが，統計的に有意な差はなかった.

② 女児においては，５年生が最も大で，次が６年生で，４年生が最も小であった．４年生と５年生との間には統計的に有意な差はあったが，５年生と６年生との間と４年生と６年生の間には有意な差はなかった.

（5）性差

1）表出性攻撃

① ４年生においては，男児の方が女児よりも大で，統計的にも有意であった.

② ５年生においては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった.

③ ６年生においては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった.

④ 男児全体の方が女児全体よりも大で，統計的に有意な差があった.

2）不表出性攻撃

① ４年生においては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった.

② ５年生においては，男児の方が女児よりも大で，統計的に有意な差があった.

③ ６年生においては，男児の方が女児よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった.

④ 女児全体の方が男児全体よりも大であったが，統計的に有意な差はなかった.

参 考 文 献

市村操一　(2004)　怒りのコントロール　ブレーン出版

神田信彦・酒井久美代・杉山成　(2005)　なぜ攻撃してしまうのか　－　人間の攻撃性　ブレーン出版

木野和代　(2000)　日本人の怒りの表出方法とその対人的影響　心理学研究，70，No，6，494 - 502.

坂井明子・山崎勝之・曽我祥子・大芦治・島井哲志・大竹恵子　(2000)　小学生用攻撃性質問紙の作成と信頼性，妥当性の検討　学校保健研究，42，423 - 433.

坂井明子・山崎勝之　(2004)　小学生用Ｐ－Ｒ攻撃性質問紙の作成と信頼性，妥当性の検討　心理学研究，75，254 - 261.

坂井明子・山崎勝之　(2004)　小学生における３タイプの攻撃性が攻撃反応の評価および結果予期に及ぼす影響　教育心理学研究，52，298 - 309.

朝長昌三・福井昭史・小島道生・中村千秋・小原達朗・柳田泰典　(2006)　小学生の表出性攻撃と不表出性攻撃に関する研究　長崎大学教育学部紀要，70，81 - 96.

朝長昌三・福井昭史・小島道生・中村千秋・小原達朗・柳田泰典　(2007)　小学生の攻撃性に関する研究　長崎大学教育学部紀要, 71, 49 - 59.

山崎勝之・坂井明子・曽我祥子・大芦治・島井哲志・大竹恵子　(2001)　小学生用攻撃性質問紙 (HAQ - C) の下位尺度の再構成と攻撃性概念の構築　鳴門教育大学研究紀要 (教育科学編), 16, 1 - 10.

山崎勝之　(2002)　攻撃性の行動科学　ナカニシヤ出版

柳田泰典・朝長昌三・中村千秋・小原達朗・福井昭史・小島道生　(2006)　子どもの攻撃性と他者認識　長崎大学教育学部紀要, 70, 1 - 15.